

めぐみの学校の子

恵田小 校長室だより

令和二年三月十九日

No. 148

卒業を心から祝う

第73回卒業生、恋次さん、倫史さん、拓弥さん、優太さん、昊暉さん、悠介さん、恵心さん、葵さん、暖美さん、紗織さん、そして、保護者の皆様、ご卒業、おめでとうございます。

今年は、例年と違った卒業式となります。在校生が参加しない、来賓もPTA会長さんお一人、時間短縮のために割愛することがあるなど、これまで行っていたことで、できないことがあります。

このような状況であればあるほど、皆さんの卒業式をいつも以上に良いものにしようという気持ちが強くなります。恵田小職員は皆、こういう思いで準備をしてきました。卒業を祝う会にかかわる映像やメッセージを収めたDVD、祝う会でプレゼントするはずだった歌を収めたDVDづくり、在校生のお別れの言葉・祝辞・式辞の配付の用意、お祝いの掲示板の準備、メッセージを書いた色紙（部活で送る色紙ができなかったので、職員がメッセージを書きました）づくりなどをしてくれました。式準備の日の前に、体育館周りの清掃をしてくださった先生もいます。

先日、祝う会でプレゼントする歌のDVDができあがり職員で見ました。恵田小職員の温かさに涙が出ました。

今日は、恵田小職員が力を合わせ、手作りの卒業式で、皆さんの卒業をお祝いします。



恵田っ子へ

「二十一世紀に生きる君たちへ」より

式辞で紹介した部分より少し詳しく内容を伝えます。

君たちは、いつの時代でもそうであったように、自己を確立せねばならない。自分にきびしく、相手にはやさしく。という自己を。そして、すなおでかっこいい自己を。二十一世紀においては、特にそのことが重要である。二十一世紀にあつては、科学と技術がもっと発達するだろう。科学・技術が、こう水のように人間をのみこんでしまつてはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりとした自己が、科学と技術を支配し、よい方向に持っていくってほしいのである。――（略）――

自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。このため、助け合う、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。助け合うという気持ちや行動のものは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることもいい。やさしさと言いかえてもいい。「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」みな似たような言葉である。

この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれ自身につけねばならないのである。その訓練とは、簡単なことである。例えば、友達がころぶ。ああ痛かったらうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい。――（略）――